

日本特化型ソブリンAIの新境地：Sakana AI「Namazu」がもたらす技術的転換

Sakana AIの「Namazu」シリーズが、膨大なコストを要する事前学習ではなく「事後学習」によって、いかに日本の主権と文化に適合した高性能AIを実現したかを解説する

事前学習 (Pre-training)



膨大なコストと
海外依存からの脱却

数千億円規模の事前学習を回避し、既存の高性能オープンモデルを日本仕様に最適化。

事後学習 (Post-training)



進化的モデルマージによる
独自の変換

複数の海外製モデルを組み合わせ、日本のデータと言語能力を融合させる独自のパイプライン。

モデル・アグノスティックな
柔軟性

特定の悪徳モデルに依存せず、常に最新のオープン技術を日本仕様へ迅速に転換可能。

Namazuが達成した3つのブレイクスルー



回答拒否率を72%からほぼ0%へ改善
海外製モデル特有の政治的・歴史的バイアスと
過度な自己検閲を技術的に排除。



日本の制度・規範への
深い適応

年金や税制など日本固有の知識におけるハルシネーションを抑制し、正確性を向上。



国内インフラによる
経済安全保障の確立

国内GPUリソースを活用し、データの越境移転を防ぎつつ
技術知見を国内に着目。

Namazuシリーズの主要モデル構成の比較

	モデル名称	ベースモデルの特性	Namazuにおける位置づけ
	Namazu-DeepSeek-V3.1-Terminus	6550億パラメータ / MoE	最高性能を誇るフラッグシップモデル
	Llama-3.1-Namazu-405B	4050億パラメータ / Meta社製	汎用的な理解と生成に負けた大規模モデル
	Namazu-gpt-oss-120B	1200億パラメータ / オープンソース	高い推論能力と高速レスポンスを両立